

アドバイス

2018年3月卒業 医療福祉学部 看護学科
公立黒川病院 看護師

伊藤 郁哉



今の自分は看護師5年目で整形外科、総合内科の病棟スタッフとして働いています。仕事は大変で悩むことも多くありますが、大学時代の友人と飲み会をしたり、趣味のマンガやアニメに没頭、ゴルフをしてリフレッシュしています。今回このような機会をいただいたので看護学科の在学生の皆さんに少しだけアドバイスをしたいと思います。

それは皆さんが思っているほど大学時代は長くないということです。3年生になれば病院実習、4年生になれば看護師国家試験があります。その間に看護研究をしたり就職試験を受けたりと慌ただしく過ぎていきます。実習の準備や試験の準備を早いうちから進めていくことをお勧めします。

これを読んだ在学生の皆さんには、人生の夏休みといわれる大学時代を楽しんでほしいです。たくさんの思い出をつづいてほしいです。そして国家試験に合格し看護師として一緒に働きたいです。

3年目になって

2020年3月卒業 科学技術学部 建築環境学科
クアアンドビー株式会社

山田 世里那

本学の建築環境学科を卒業し2年がたちました。現在、リニューアルを主に行うゼネコンの工事で施工管理の仕事をしております。学生時代とは異なる様々な人とかかわりにより、勉強の日々を送っています。

リニューアル特有の、お客様や職員の方が生活している中で工事のため、特に事故がないよう施工主様との打ち合わせを密に行い仕事をしております。ピロアーチャーでの変化や、工事が無事に無事故無災害で完了した際の喜び、特にお客様からの感謝の言葉をいただいた時に仕事のやりがいを感じております。

現在若手社員という立場で、現場には上司が必ずいて分からない事があれば教えてくれる環境で働いています。しかし3年目になると、先輩が教えてくれる立場にもなってきました。今後、少しでも早く会社の戦力になれるように、資格取得を目標に精進していきたいと考えております。また、私が成長し一人前になることがお世話になった様々な方への恩返しにも繋がると思い、気を引き締めて頑張っていきたいです。

9年目を迎えて

2014年3月卒業 医療福祉学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻
作業療法士

荒井 浩樹



作業療法士専攻12期生として入学し、卒業してから早9年が経過しました。

私は現在、仙台市内の病院で作業療法士として勤務しています。

当院では整形外科や脳血管疾患といった疾患別の対象者に加え、急性期や回復期リハビリテーション、訪問リハビリテーションといった様々な時期での作業療法を経験させていただきました。さらにここ2年は新型コロナウイルス感染症の影響により、感染対策を徹底しながら業務を行っています。

作業療法士として働き始めて9年が経過し、職場でも中堅となり後輩への指導も行うようになりましたが、疾患に対する知識や患者様へのアプローチなど、まだまだ勉強しなければならないことがたくさんあると感じています。

これからも患者様へより良い作業療法を提供していきたいよう、自分に何ができるのか、どうすべきなのかを考えながら日々精進してまいりたいと思います。

各学部学科より、 コロナ禍にも負けず、 社会で力強く活躍する 卒業生をご紹介します。



社会とつながるきっかけに

2014年3月卒業 総合政策学部 総合政策学科
公務員

相原 綾乃



福島県庁に就職し9年目、現在は統計課に勤務しています。

担当しているのは商品の価格やサービス料・家賃を対象とした調査で、「野菜が値上がりした」「魚介の出回りが少ない」など、身近な情報となってテレビや新聞で取り上げられます。

世界情勢や社会問題の影響を知るきっかけにもなるので、ぜひ在学生の皆さんも「被服が値上がりした」などのニュースを見て「困ったなあ」で終わるのではなく、「何でだろう？材料が値上がりした？輸入規制されてる？だとしたらコロナの影響？戦争の影響？」と、興味を持ってみてはいかがでしょうか。

大学時代はそんなと考えずばっつと流し見していましたが、背景まで想像しながら見るニュースはなかなか面白いものです。

習性のように職場へ行きたまに晩酌して帰宅する取り留めのない毎日を送る私ですが、国民生活の現状を国へ届ける役割の一部を担っていることを意識し、今後も職務に当たろうと思います。

難聴児支援

2021年3月卒業 医療福祉学部 リハビリテーション学科 言語聴覚専攻
秋田大学医師科附属病院 耳鼻咽喉科 言語聴覚士

山田 遥咲



「1-3-6ルール」これは生後1ヶ月までに新生児聴覚スクリーニング(NHS)を受け、生後3ヶ月までに確定診断、生後6ヶ月までに療育を開始する、という2000年に米国が出した難聴ガイドラインです。

難聴は早期発見、早期療育が非常に重要です。当院は精密聴力検査機関に定められており、NHSにて2回リファ（要再検）となった児の精密検査を行っています。この精密検査にて明らかなきこえの問題はないとしても、当科の難聴外来に通院していただき、聴力検査や発達検査を通して経過観察を行います。精密検査にて補聴器が必要な聴力と診断された場合には、治療開始と同時に療育・教育施設にも紹介をします。秋田県は、医療と療育・教育機関の連携体制が整っているため、常に情報共有することで難聴児だけでなく保護者支援も適切に行うことが出来ています。

日頃よりお世話になっている他施設の先生方に感謝し、今後も難聴児を支援する1人として日々精進して参りたいと思います。

今の私

2021年度3月卒業 科学技術学部 知能情報システム学科
株式会社沖ワークウェル 事業部 第二チーム Web商品開発グループ

田中 裕紀



大学を卒業して3ヶ月になりますが、大学で学んだことを活かした職場に就職できました。私は生まれつき筋力が低下する難病を患っています。そのため、現在の職場は障害者雇用を積極的に行っている特例子会社で、私と同じような障害を持っている方々がたくさん所属しており、在宅での勤務を行っています。

現在、私が行っている業務は、コミュニケーションツールの開発・管理を中心に行っています。コミュニケーションツールは弊社に欠かせないもので、業務中に使用しており、外部の企業にも販売しています。そのため、問題などが発生しないよう日々業務に取り組んでおります。

大学でプログラミングに出会い、それが今となっては仕事として成り立っています。今までお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも一生懸命業務に取り組んでいきたいと思っています。

さらなる成長のために

2020年3月卒業 医療福祉学部 リハビリテーション学科 視覚聴覚専攻
視覚訓練士

鈴木 渚



視能訓練士として就職してあっという間に3年が経ちました。働き始めた年は、新型コロナウイルスの流行により緊急事態宣言が発表され今後の日常がどの様に変化していくか不安な毎日で慣れるまで戸惑いもありました。

その中で、患者さんにとって負担が少なく正確な検査をする為にはどうすれば良いか、医師が必要としているデータを得る為にはどのようにすれば良いか悩む事がありました。しかし、先輩方から丁寧にアドバイスを頂き、今では少しずつスキルアップしている気がします。

最近、斜視訓練の子どもを担当させていただく機会が先陣方からたくさんある事を教えていただき勉強の日々です。

これらの経験を活かして自ら考えて行動できるように一歩一歩成長できるように頑張りたいです。

塞翁が馬

2008年3月卒業 医療福祉学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻
秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 主任

松橋 孝幸



日々の仕事以外で自分に何があるかと言えば、上司の依頼で秋田県理学療法士の理事になったこと。

理学療法士の普及を通して、保健・医療・福祉の発展に寄与する……、そこまで高な気持ちを持っていた訳ではなく、「成り手が少ないからなあ」と、ボランティアのつもりで始めた。

コソコソと続けていたお陰か、卒業後は地元秋田にいるにも関わらず、お世話になった先生から、在校生への講演や今回のような寄稿の依頼が来るなど、ありがたさ・ご縁とまさかという体験が続いています。

卒業してから14年。これまで「輝人」に寄稿された方たちのような、輝かしい実績を残せていませんが、当時から全く想像できなかった自分に辿りついていきます。

今の平凡な自分でも、恵まれていたからこそであり、感謝の気持ちを忘れないようにと強く思うようになっています。これからも目の前の課題をこなしつつ、その時の自分にとっての「何か」が見つかるまで良いなと思っています。

4年目を迎えた今

2019年3月卒業 医療福祉学部 保健福祉学科 保健福祉専攻
社会福祉法人 女川町社会福祉協議会

久保 侑大



大学を卒業後、女川町社会福祉協議会に入職し、3年が経ちました。私の地元は青森県なので、女川町という初めての町で仕事をしていくことには不安もありました。また、社会福祉協議会は常に地域住民の方々とのかかわりを持つ仕事であるため、入職した当時は仕事を覚えることのほか、地域に出向くという地域住民の方々に顔と名前を覚えてもらえるようになるのかを考えながら仕事をしていました。

現在は、新型コロナウイルスの影響もあり生活困窮者の方に対する相談支援に携わり、その方の自立に向けて一人ひとりに寄り添った支援を展開できるよう取り組んでいます。

社会福祉協議会の地域における役割は多岐にわたり、4年目を迎えた今でも日々勉強の毎日です。誰にとっても暮らしやすい福祉の町づくりを目指し、社会福祉士としてさらに成長していけるよう頑張りたいと思います。

理想の臨床工学士像を目指して

2020年3月卒業 科学技術学部 臨床工学科
臨床工学士

和田 彩花



私は本学の臨床工学科を1期生として卒業いたしました。1期生ということで身近に頼れる先輩がおらず手探りのことも多くありましたが、先生方が親身に向き合ってくれたおかげで有意義で充実した学生生活を送ることができました。

卒業後は地元の病院に勤務しており、今年で3年目になります。現在は複数の部署をローテーションして業務にあたっています。想定外の機器トラブルや、緊急で治療が必要な患者さんの対応など、様々なことが起こるため目まぐるしい毎日です。臨床工学士という専門性の高い職業に対して求められるレベルは高く、他職種と適切にコミュニケーションを取るには、医療機器や患者さんの病態についての深い理解が重要であると感じています。

これからも目の前のことにしっかりと向き合い、知識や技術を持った上で患者さんに寄り添える臨床工学士像を目指し、精進していきたいです。